

(基本情報)

会議名称	第 7 回 立川市第 5 次地域福祉計画策定検討委員会 第 6 次地域福祉市民活動計画策定委員会
開催日時	令和 7 年 2 月 4 日（火曜日）午後 7 時～9 時
開催場所	立川市役所本庁舎（2 階 208 会議室）
次第	1. 委員長あいさつ 2. 前回委員会ふりかえり 3. 次期計画の素案について 4. その他
配布資料	1. 第 6 回委員会 議事要旨 2. 市地域福祉計画素案の修正一覧 3. 第 6 次地域福祉市民活動計画素案 4. 事前シート 5. ダイジェスト版 6. 立川市第 5 次地域福祉計画・第 6 次地域福祉市民活動計画に対する委員の皆さまからのメッセージについて
出席者	〔委員〕 熊田博喜（委員長）、中村喜美子（副委員長）、久下沼諒、藤原紀子、齋竹一子、菅根浩子、井村良英、太田なつみ、岡本彰子、景山千鶴子、大江尚之、中村ひとみ、宮本直樹、小澤清富 〔事務局〕 ＜立川市＞ 小平真弓（地域福祉課長）、高橋知宏（地域福祉推進係長）、田中真吾（地域包括ケア推進係長） ＜立川市社会福祉協議会＞ 枝村珠衣（地域活動推進課長）、小山泰明（地域づくり係長）、内金崎快、高橋美季、吉田理恵（地域づくり係）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0 人
会議結果	以下の通り
その他	以下の通り
担当	立川市社会福祉協議会 地域活動推進課 地域づくり係 電話 042-540-0200（代表）

(議事要旨)

【1. 委員長あいさつ】

- ・委員長よりあいさつがあった。

【2. 前回委員会ふりかえり】

<事務局（市、社協）>

- ・資料1に基づき、前回委員会のふりかえりを説明した。
- ・資料2、資料5に基づき、市地域福祉計画素案の修正について説明し、再度ご意見をいただきたい部分を伝えた。

以下、主な意見等。

- ・資料2の11番、素案35ページ「狭間の声を拾い上げる」の「拾い上げる」という表現は上下関係を想起させる気がするというご意見に対して、事務局内で「受け止める、集める、キャッチする」と3つの案が出た。
→議論のうえ「集める」とすることとした。

- ・資料2の13番、素案40ページの冒頭「周囲と関わりを持ちたくない人が増えていますが、」という表現について本当に増えているのか。
→<事務局（社協）>コロナ禍で人とのつながりが希薄化していることに伴い、人と関わりたくないという人が増えている印象がある。前回委員会で同様の意見をいただいた。

(ダイジェスト版・計画体系図)

- ・共通理念から伸びている矢印は必要か。
→<委員>複雑化している印象がある。矢印を一つにする、共通理念とのつながりは色で表現するなどの表現方法もあるのではないか。
→素案の黒い矢印は修正する。現状のレイアウトを活かしつつ矢印の表現方法については委員長預かりとして、事務局と検討する。

- ・「第5次地域福祉市民活動計画と立川第5次地域福祉計画は共同で作成しました」の「共同」の漢字は「協働」でなくていいのか。
→<事務局（社協）>これまでも「協働」を使用していて、社協の事業でも「協働」を使用している。
→「協働」に修正することとする。

(ダイジェスト版・5つの重点推進事項のつながり)

- ・「★身近に相談できる体制づくり」内の「地域住民同士が相談し合い、必要に応じて

専門機関につながります」について、相談し合い、その後必要に応じて専門機関につながるのが地域住民であることに違和感がある。相談することと専門機関につながることは並列ではないのではないか。

→＜事務局（社協）＞住民同士の話し合いの中で気づいたことを、社協等のことを知っている住民が近くにいる地域福祉コーディネーター等につながることを想定しており、専門職につながる専門職がいることは想定してない。身近に知っている福祉関係者に市民がつながりあっていただくことがセーフティーネットとして機能が強い地域なのではないかということで記載した。

→表現について委員長預かりとして、事務局と検討する。

・★地域福祉アンテナショップの拡充について「多様な形で地域住民が参画します」の「参画」は堅いイメージがある。

→「参加します」に修正する。

・重点推進事項の主語は社協なのではないか。主語をはっきりさせておく必要がある。

→＜委員長＞社協だけが主語ではなく、地域住民、関係団体、関係機関等皆で協働していくことが基本となる。一方で、主語が複数あり、誰が何をするのかがわかりにくいいため表現を工夫する必要がある。

→＜事務局（社協）＞地域福祉市民活動計画は社協及び市民の活動計画であることを踏まえて主語も混在させている。わかりにくいのでどなたが読んでもわかるように文言については改めて検討、修正する。

・★つながり・支えあいの充実について、「つながりを充実させます」は強いという印象があり、柔らかい表現のほうがいいのではないか。

→「つながりを広げます」など文言を修正する。

・★地域活動の担い手支援について「多様な地域活動に誘い合います」は誘い合うことが担い手支援にどうつながるのかという部分のイメージがつきにくく、表現の工夫や言い換えなどができないか。

→＜事務局（社協）＞地域住民を主語と想定して記載している。委員会内で「知っている人に誘われると活動につながる」というご意見があったので、知り合い同士で誘い合って活動に参加していただくことをイメージしてこの文言にした。文言を再考させていただく。

・★つながり・支えあいの充実について「様々な形態のつながり・支えあいを行います」内の「行います」という動詞に違和感がある。

→文言を検討し、修正する。

・★身近に相談できる体制づくりについて、「複雑化・多様化している相談を各専門機関がチームとなり受け止めます」は最後に配置するのがいいのではないかな。

→順番を変更する。

・「～していきます」「～をやっていきます」という表現は「誰かがやってくれる」と思わせてしまうので、「自分もやらなくてはいけない」と思わせる言葉遣いがよいのではないかな。

→主語を明確しつつ語尾の文言を検討し、修正する。

・横の矢印は何を意味しているのか。

→＜事務局（社協）＞今回の重点推進事項5つのうち「★身近に相談できる体制づくり」と「★つながり・支えあいの充実」が全体の基盤になっている。外側の円は上下の重点推進事項が循環していることを意味している。それを推進していく3つのエンジンとして真ん中の3つの重点推進事項がある。3つの重点推進事項が周りの円（循環）に影響し合っているということを横の矢印によって表している。

→デザイン、構成を再検討する。

・「★地域福祉アンテナショップの拡充」は上下の円と重なっているが、他の真ん中の重点推進事項は重なっていない、3つとも上下と重なっているほうがよいのではないかな。

→＜事務局（社協）＞図の重なりについては特段意図しているわけでない。

→楕円の大きさも含めて再検討する。

・打ち手が並列で表記されているので、どうしたら共通理念が達成するのかがわかりにくいのが違和感の原因になっているのではないかな。共通理念の「幸せ広がる立川」に関連し「幸せ」の要因は「よい人間関係」とあるという研究結果がある。その観点では、よい人間関係を増やす様々な取組みが重点推進事項であると思う。よい人間関係の構築には沢山のつながりを一方的につくるのではなくて、理解者の存在が不可欠である。アイデアとして、表紙の木のイラストに根の部分を追加し、理解者の存在を表現できるとよいのではないかな。

→＜事務局（社協）＞いただいた意見を参考に再検討する。

【3. 次期計画の素案について】

今回の委員会では主に次期地域福祉市民活動計画について議論いただくことを説明し、資料3から資料5に基づき素案の説明をした。

以下、主な意見等。

- ・素案 34 ページ「困りごとを一旦しっかり受け止められるような体制」は「一旦」なのか、「しっかり」なのかどちらなのか。

→「一旦しっかり」を削除し「困りごとを受け止められるような体制」とする。

- ・目標 3「支える人を支えるまち」の推進事項「支援する人を支援する仕組みづくり」の中で当事者のことを入れているのが肝であると思う。同じような経験をしている人が理解者になること、当事者が何かをされる立場でなくする立場であるということが計画に入っていることに意義がある。

→しっかり推進していきたい。

その他、用語説明や誤字脱字に関するご意見をいただき、事務局で検討、修正することとなった。

【4. その他】

<事務局（社協）>

- ・資料 6 に基づき計画内に掲載する委員メッセージの提出を依頼した。
- ・今回で委員会出席が最後となる委員から挨拶があった。
- ・今後の日程について、次回第 8 回委員会の日程およびパブリックコメントは 4 月を予定している旨を共有した。

以上